



防災訓練での地区防災会活動



親局



防災無線屋外子局



村営バス広丘線



デマンドタクシーくるりん号



大尾沢水源「水の神」

村民の暮らし・教育・健康を支える公共施設一覧



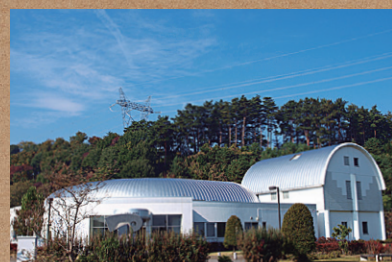
AYTマルチメディアセンター



子育て支援センター わくわく館



朝日村役場



ピュアラインあさひ



朝日村中央公民館



健康センター

安心

の土台となる 環境づくり

村に住んでいる人にとって快適で、住んでよかったと思える村。
村外の方がこんな村に住みたいと思ってもらえるような村。
安心、安全な環境づくりを朝日村はめざしています



水がおいしい！

おいしい水の供給

水のおいしさは、朝日村の自慢のひとつです。水道の蛇口をひねれば、いつでもおいしい水が飲めます。そのおいしさの秘密は、ほとんど手を加えていない天然の水そのものだからなのです。人体の6〜7割を占めるという水は健康にも大きく影響します。

朝日村の上下水道などライフラインの整備はすべて完了し、現在は維持管理に努めています。これからもおいしい水の提供に努めてまいります。

村民の「足」となる 公共交通システム

交通施設については、平成20年に路線バスが廃止となったことを契機に、新たな交通システムをスタートさせました。そのひとつが、村内からJR篠ノ井線広丘駅まで接続する村営広丘線バスです。利用料は1乗車100円(中学生以下は無料)。通学で利用する高校生や通勤者、病院へ通う高齢者の大切な交通機関となっています。

さらにデマンドタクシー「くるりん号」を運営しています。電話での予約により、村民はもちろん村民以外でも利用でき、村の内外を結ぶ大切な交通機関となっています。こちらも1乗車100円です。

デジタル防災行政 無線システム

朝日村では平成21年度にデジタル防災無線システムを整備しました。AYTマルチメディアセンターに親局、役場にコンソール(操作卓)を設置して、村内35箇所に屋外拡声子局を設置しています。屋外拡声子局は、13箇所はアンサーバック付きの双方向子局となっていて、緊急時、災害時に地区との通信を可能にしています。

また、公共施設、村内の全家庭に戸別受信機を設置して、情報が隔々までいきわたる環境となりました。

村民みんなで守る 防災活動

自分家族を助け、隣近所みんな地域を助け、みんなで村民全員を助けることが朝日村の目指す防災体制です。村内では、地域の自衛力を高めるため、地区防災会活動が定期的におこなわれています。また、村全体での地震や土砂災害の防災訓練も実施しています。



わら細工講座



ワールドカップ選手を生み出した天然スケートリンク



あさひ保育園



わくわくサポート隊遠足ボランティア



「向陽台」の分譲地



わくわく館

地域ぐるみで



子育て

朝日村はぬくもりのある教育を重点に、村民みんなで子育てを支援し、
活気のある地域づくりを目指しています。
大人も子どもも共に学んでいける環境が整っています

を全力支援

みんな元気！



地域の拠点としての 保育園

平成27年に2つの保育園を統合して誕生した「あさひ保育園」は地元住民、行政、設計者、施工者が連携し、地域資源を活かして造られました。

地元のカラマツ材を使用した園舎は木のぬくもりに満ちあふれ、使用されている机や椅子も地元のクラフト工房数社が連携して制作したものです。例えば、園児の椅子は軽くて収納しやすく、園児ひとりでも持ち運びができるように作られています。地中熱を利用した床暖房、太陽光発電設備も備えており、防災や環境

学校支援ボランティア

地域ぐるみの子育て支援として、朝日小わくわくサポート隊（学校支援ボランティア）運営委員会を設置し、学校と地域が連携・協力しながら教育活動を推進しています。「こんな子どもに育てたい」という願いや課題を地域全体で共有し、地域の皆さんにボランティアに参加してい

に配慮した地域の拠点としての役割も期待されています。
定員は150名。3・4・5歳児の平日保育（月曜日～金曜日8～16時）は無料。平日、土曜日の延長保育は有料でこなっています。

ただ、一緒に子どもを育てていく取り組みをおこなっています。
子どもが地域の大人とふれ合う機会を増やし、多様な経験をする機会の拡充により、「生きる力」を育んで育んでいこうとしています。
学校、家庭、地域が一体となつて子どもを育てる環境が整備されることで、地域の絆も強まり、地域コミュニティの活性化への効果も期待されます。

自然のなかで、 家族のびのびと暮らす

平成26年に若者向け住宅団地「向陽台」の分譲を開始し、現在も第2期住宅団地を低価格で分譲中です。
さらに子育て世代応援特典により条件を満たしていると、価格から1割引にて販売しています。
敷地の広さは、自家用車が2台余裕で駐車ができ、ガーデニングも可能です。美しい自然の懷で、のびのび暮らせませす。

空き家の活用

人口増対策の一環として、村内の空き家を有効活用し、村外の方に紹介する「空き家バンク」を実施し

生涯学習の推進

朝日村では年齢や男女を問わず、「いつでも」「どこでも」「何でも」学ぶことができる生涯学習を推進しています。心豊かで潤いある地域社会づくり、文化やスポーツを通じて交流すること、活気ある村づくりにつながります。

子育て支援センターに設けられた「わくわく館」では地域、行政、家庭が連携して家庭教育をサポートする取り組みを行っています。朝日村のような農村でも核家族化、夫婦共稼ぎの方が増えています。そこで、子どもたちが「自分で考えて」遊んでもらえるようなサービスになっています。小学生には手作りおもちゃや、自分で考えた遊びや勉強を自主的におこなえるようにサポートしています。地域の皆さんの協力をいただいて、自分の趣味や特技を子どもたちに教えながら、大人も子どもと一緒に学んでいくクラブです。



あさひオレンジカフェ

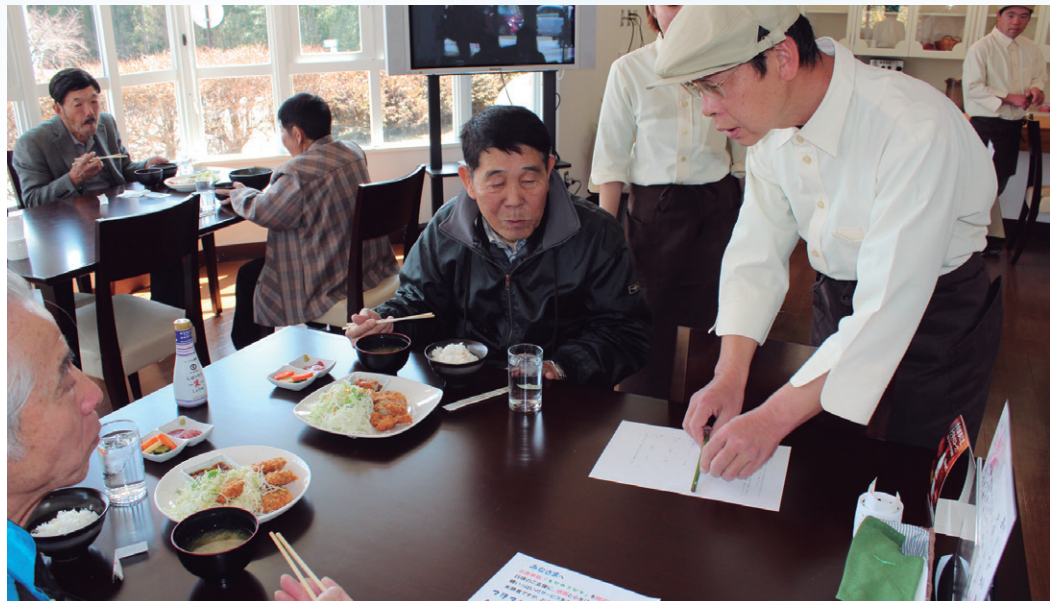


ベビーマッサージ



いきいき健診

お食事処もりのこびと(就労継続支援B型事業所)



支援が充実、暮らしやすいです！



えべや かたくりの里講座(再彩クラブ)

医療・福祉対策

健康を維持促進する

赤ちゃんからお年寄りまで、健康でいきいきと「生涯現役」で暮らせるような村づくりをしています。また、社会の変化に対応した福祉を提供していきます

生涯現役「健康村」づくり

ライフスタイルの変化や多様化によりガンや糖尿病、高血圧などの生活習慣病の増加、また、それらが悪化し脳血管疾患・心疾患等の重症化、高齢化にともない認知症、寝たきりなど介護を必要とする人の増加は深刻な問題になっています。健康診査がん検診の受診率を上げること、疾病の早期発見、治療を推進します。同時に、食事や運動習慣、歯の健康などの指導、公共の場での禁

煙の徹底など、生活習慣病の発症や重症化、合併症への進行の予防に重点を置いた一次予防にも努めています。

このように朝日村は、生涯健康に過ごすことができる「健康村」実現へのさまざまな施策に取り組んでいます。

妊娠から出産、育児支援

安心して育児ができるよう、妊娠中から育児期まで関係部署と連携し



えべや 楽しいですよ

ながら支援体制を整えています。少子社会対策にもつながる施策として、不妊治療費助成、平成28年4月からは不育症の治療費助成を始めました。不育治療に関する一治療あたりの期間の医療費、自己負担分の2分の1を負担しています。ただし、1治療期間ごとに20万円を限度とし、妻の年齢が40歳未満で4回、40歳以上で3回の助成をおこなっています。さらに、出産祝金(第1子・第2子は10万円、第3子以上は30万円)の支給、18歳まで医療費無料を実施しています。

高齢者支援

「朝日村老人福祉計画及び第6期介護保険事業計画」(平成27~平成29年度)では、朝日村が「ひとつの家族」としてお互いに支え合い、地域福祉の絆が確かなものとなるよう取り組み、むき施策を取りまとめました。

この計画では、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取り組みを推進しています。「一緒にこう」という方言から名

すべての人が自分らしく暮らせるように

幼児から高齢者、障がい者まで、すべての人が住み慣れた地域で自分らしく幸せに生活できるよう、共に助け合える地域福祉社会の実現を目指しています。

また、心の病を抱える人の増加に対応し、心身の健康づくりのための知識の普及と自立を支援しています。